

IVR 学術用語集

【目的】

IVR は、その進歩に伴い、幅広い疾患や病態を治療対象とするところとなり、その手技はきわめて多岐にわたり多様である。また、次々と新たな手技が開発、臨床応用され、それらに呼び名が与えられるため IVR 手技を表現する名称・用語は年々増加し複雑さを増している。さらに、それぞれの用語の略語 (abbreviation) や頭字語 (acronym) が汎用されることもその複雑さを助長している。また一方、英語表現を翻訳して日本語用語とされる場合や、類似の治療手技が複数の診療科で行われるなどの事情から、同一手技に対する同義語が多く存在し、その結果、学会発表や論文、教科書における記述において同一手技に対する様々な表現が用いられるという好ましくない現状がある。

本 IVR 学術用語集は、医学・医療関係者間での用語の混乱や誤解を避けるために、IVR 手技を指し示す用語の共通認識を示すとともに可能な限りのその統一を図ることを目標とするものである。

【収載用語の選択】

本 IVR 学術用語集は、医学・医療関係者が教育、診療、研究の場において、診療記録作成、学術発表、論文や教科書の執筆の際に必要とされる IVR 手技に関する名称を収載したものである。収載用語の選択は、「IVR-Web 登録用術式名」に収載されている IVR 手技に対応する名称を拾い上げた。さらに、治療対象となる疾患を列挙して、それに対応する IVR 手技に関する名称を用語委員の経験をもとに、教科書、学術誌、PubMed などの文献検索ソフト、各種インターネット記事などを参考に追加が必要と考えられるものを加える形で決定した。ただし、極端に珍しい手技や先進的で一般に普及していない手技に関する名称は収載しなかった。

【IVR 学術用語集の掲載形式】

本用語集では、まず、分野（中枢神経、胸部大血管、腹部血管、非血管）の区別を行なった後、各分野で対象となる疾患を列挙し、それに対する IVR 手技を記載することとした。

それぞれの IVR 手技については、日本語（推奨語および類似語）、英語（推奨語および類似語）推奨英語略語、各用語に用いられる接頭語・接尾語やコメント、対応する IVR-Web 登録用術式名を記載した。

「推奨語」とは、ひとつ以上の同義語がある場合、最も標準的と思われる語を示すもので、用語集の各欄（日本語、英語、英語略語）中の先頭に記載した。それに対する同義語が存在する場合には、その後に（ ）を用いて記載した。

「推奨語」は、診療記録作成、学術発表、論文や教科書など執筆の際に使用することを推奨するものである。

【表現法】

1) 療法と術

治療行為には、「療法」や「術」などが語尾に使用される場合があるが、本用語集では、即時的な治療法に対しては「術」、ある程度の時間を要するものに対して「療法」を用いた。

例) 動脈塞栓術、動注療法

2) 的

手技により、「経皮」あるいは「経皮的」、「経肝」あるいは「経肝的」と表現される場合があるが、それらを規則的に統一するのではなく、それぞれの手技において最も普及し標準である表現を推奨語とした。

3) ガイド

誘導画像を表現する際、「エコーガイド下」、「CTエコーガイド下」など、「ガイド」いう表現が使用されるが、「X線透視」についてはガイドを用いず、「X線透視下」とすることを推奨語とした。

【IVR について】

IVRに対する日本語表示として「画像下治療」を推奨する。これは、2014年10月日本IVR学会の声明で、「IVRの日本語表示が必要な場合に、可能な範囲で共通の用語として使用して頂くためのもの」とされたものである。本用語集では、本学会名でも使用されている「IVR」を英語の「interventional radiology」に対応する日本語としての推奨語とする。また、英語を使用する際の略語については「IR」を推奨する。

【他の用語集との整合性】

本用語集と他学会による用語集の間には整合性が保たれるべきであるが、現時点ではそれに至っていない。今後調整を進め、可能な限り推奨語が統一されるよう努力することが望まれ、今後の課題としたい。